

かけはし

YAME GENERAL HOSPITAL Public Relations Magazine

かけはし 2025年 秋号

- 地域医療懇談会開催
- 地域医療の将来を考える
- 脳神経外科紹介
最新鋭「バイブレーション血管撮影装置」
脳ドックのご案内
- 選定療養費のお知らせ
- がんサロン八女のご案内

病院理念

心のかよった医療を提供し安心して暮らせる地域づくりに貢献します

基本理念

1. 患者さん中心の医療
2. 地域医療の充実
3. 人材の育成
4. 経営基盤の安定

田園風景

撮影：企業長 田中法瑞

交通アクセス



堀川バス 福島又は公立病院前下車
西鉄バス 西鉄福島下車



JR羽犬塚駅下車
堀川バス（25分）又はタクシー（15分）
新幹線筑後船小屋駅下車
タクシー（20分）



九州自動車道 八女IC
車10分（外来駐車場完備）



地域がん診療連携拠点病院 地域医療支援病院

公立八女総合病院
Yame General Hospital

〒834-0034 福岡県八女市高塚540-2 TEL.0943-23-4131

<https://www.hosp-yame.jp>

ホームページQRコード



地域医療 懇談会を 開催しました

〈第2弾〉

地域住民の皆さまとの対話を通じて、今後の医療提供体制や地域医療のあり方について、参加者の皆さまと共に考える「地域医療懇談会」を八女市及び広川町の7会場で開催しました。



7/31 星野会場



8/7 上陽会場



8/8 矢部会場

連日の猛暑にもかかわらず、延べ 480 名以上の皆さまにご来場いただき、当院からの情報発信として、田中企業長より「地域医療の未来を考える～新病院再整備計画と公的医療をめぐって～」と題した基調講演、事務局より「病院機能再整備基本計画（追補版）」の概要説明を行い、当院を含む地域医療の現状と課題を共有しました。



8/18 立花会場



8/19 広川会場



8/20 八女会場



8/25 黒木会場

また、来賓として、構成自治体から八女市の簗原悠太郎市長、広川町の氷室健太郎町長、医師派遣を担う久留米大学から内村直尚学長、安陪等思常務理事、石竹達也副学長、地域医療を担う八女・筑後医師会から大橋輝明会長にそれぞれご臨席いただき、ご来場の皆さまとの懇談の場にもご参加いただきました。

懇談会においては、「不採算医療を担う公立病院の必要性が良く理解できた」「今の経営状況や再整備計画については今後の財務面に不安を感じる」等、率直なご意見を多数いただきました。

今回の懇談会でいただいたご意見は、再整備計画を含む今後の病院運営や地域医療の改善に活かしてまいります。また、定期的な開催を通じて、住民の皆さまからの信頼回復に努めていきたいと考えています。

事前アンケートへのご協力、ならびにご来場くださいました皆さまに感謝申し上げます。



企業長 田中法瑞

地域医療懇談会講演「基調講演」及び「再整備計画概要」については、
当院 YouTube 公式チャンネル中のアーカイブで配信中です。
参加者アンケートの内容等についてはホームページをご覧ください。



地域医療の 将来を考える

～新病院再整備計画と公的医療をめぐって～

前ページでお伝えした「地域医療懇談会」における田中企業長の基調講演内容について、以下のとおりご紹介いたします。



1. 令和6年度 全国公立病院（中・大規模）の赤字病院の割合は94%以上

200 床以上 300 床未満

	赤字病院数	経常赤字割合
令和1年度	40	60%
令和5年度	60	90%
令和6年度	63	94%

300 床以上 400 床未満

	赤字病院数	経常赤字割合
令和1年度	62	61%
令和5年度	79	77%
令和6年度	98	96%

400 床以上 500 床未満

	赤字病院数	経常赤字割合
令和1年度	45	56%
令和5年度	59	71%
令和6年度	63	94%

全国自治体病院協議会（841 病院）調査一部抜粋（2025/8/6）

～公立病院の赤字は各病院の経営努力だけの問題ではない～

全国の公立病院の経営状況について、令和6年度の収支において94%以上の病院で赤字になっていることが発表されました。

赤字の病院数は令和5年度より増加しており、当院の赤字額も11億円から16億円に増加しています。

2. 筑後地区の救急車搬送による入院数

2023 年度厚労省 DPC データ

	救急車搬送による入院数 (月平均)	救急対応	
		脳外科	循環器
聖マリア病院（3次）	421.5	○	○
新古賀病院	149.2	○	○
高木病院	106.4	○	○
大牟田市立病院	99.2	○	○
久留米大学病院（3次）	85.4	○	○
公立八女総合病院	79.1	○	○
嶋田病院	76.5		○
米の山病院	50.8		○
朝倉医師会病院	46.0		○
大牟田天領病院	43.3		○
柳川病院	42.4		○
筑後市立病院	37.9		
久留米総合病院	30.2		○
田主丸中央病院	29.5	○	○

当院は、筑後地区では6番目に救急車搬送による入院数が多い病院です。また筑後地区では脳外科と循環器科の救急に対応できる数少ない病院です。

3次救急を担う救急医の減少と働き方改革

八女筑後医療圏内で急性期医療を完結しなければならない

3. 日本の病床数について

厚労省医政局地域医療計画課作成（2024）

	人口千人当たり 病床数	病床百床当たり 医師数	人口千人当たり 医師数	病床百床当たり 看護職員数	一人当たり年間外来 診察回数
アメリカ	2.8	96.3	2.7	432.2	3.6
イギリス	2.4	131.2	3.2	358.6	5.0
ドイツ	7.8	58.4	4.5	155.0	9.4
フランス	5.6	56.6	3.2	171.7	5.5
スウェーデン	2.0	220.2	4.4	544.2	2.3
日本	12.6	20.5	2.6★	95.8	11.7

・病床数と医師数について

日本は、人口当たりの病床数は世界でトップですが、病床当たりの医師数、看護職員数は非常に少ないことが報告されています。

・外来受診数について

1年間で国民1人が病院や診療所の外来を受診する回数も日本が世界でトップです。



4. 公的医療とは？

当院には災害が起きた時に対応できる経験のある医師が在籍しています。地域の危機の時に、なくてはならない病院です。

～公的医療とは～「5医療」（地域に必要な5つの大切な医療）

1.救急医療	急病や事故などの救急事態に対応する医療
2.災害医療	地震や台風などの災害時に対応する医療体制
3.へき地医療	医師不足地域（離島や山間部）での医療確保
4.周産期医療	妊婦・新生児の命と健康を守る医療
5.小児医療	子どもの成長や病気に特化した医療

現在当院には自衛隊病院出身の
常勤外科医が2人在籍

熊本地震で自衛隊医療を指揮した
医師が当院の副院長に就任



JMATとして能登半島地震にも
派遣された

5. 地域医療支援病院の役割と機能（当院は地域医療支援病院です）

～地域医療支援病院とは～

「紹介患者に対する医療の提供や救急医療の提供など、地域で必要とされる様々な取り組みを通じて、かかりつけ医を支援する医療機関」

- ・紹介患者重点医療機関（特定機能病院 88 / 地域医療支援病院 707）は全病院の9.8%
- ・八女筑後医療圏では筑後市立病院・公立八女総合病院の2病院が地域医療支援病院

主な機能

- 紹介患者に対する医療の提供
- 医療機器の共同利用
- 救急医療の提供
- 地域の医療従事者に対する研修

6. 新興感染症で公立病院の役割を再認識（当院は感染症法に基づく協定指定医療機関です）

新型コロナウイルスのパンデミックの時期に、総務省・厚生労働省は新興感染症で公立病院の役割を再認識しました。特に総務省は「公立病院は危機のための病院」という認識を新たにし、公立病院の統合と再編について「新病院建設の際には財政支援を手厚くする」ことを、このコロナ以降に決定しました。

新興感染症で公立病院に大きく依存

	公立病院割合 (病床数)
全病床数	14%
新型コロナウイルス感染症の対応状況	32%
人工呼吸器等使用（重症） 新型コロナ入院患者数	56%

日本は病床数が多い
にも関わらず
「病床逼迫」「医療崩壊」
という事態になった。

多くを占める
民間病院への
政府の指導による
病床確保が困難だった

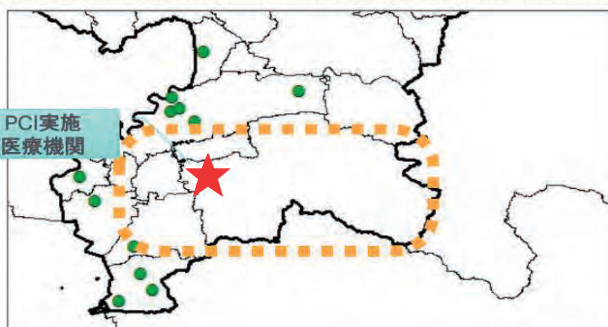
総務省は「公立病院は
危機のための病院」
と考え、企業債(特別分)などの
財政支援を手厚くした

←総務省自治財政局準営企業室作成（第3波：2021年1月時点）

7. 突然の「脳卒中」「心筋梗塞」地域でどう対応するか

突然の命に関わる病気として「脳卒中」と「心筋梗塞」があります。国は「脳卒中・循環器病対策基本法」を定め、地域格差のない治療を目指しています。当院は、八女筑後医療圏では、心筋梗塞に対するカテーテル治療ができる唯一の病院であり「地域になくてはならない病院」です。

急性期脳卒中・心筋梗塞の治療の地域格差



書誌「脳卒中・循環器病対策基本法」より（2018年）
（当時：国立循環器病センター院長 峰松一夫先生）

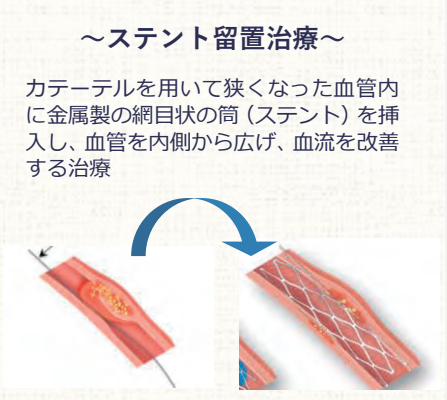
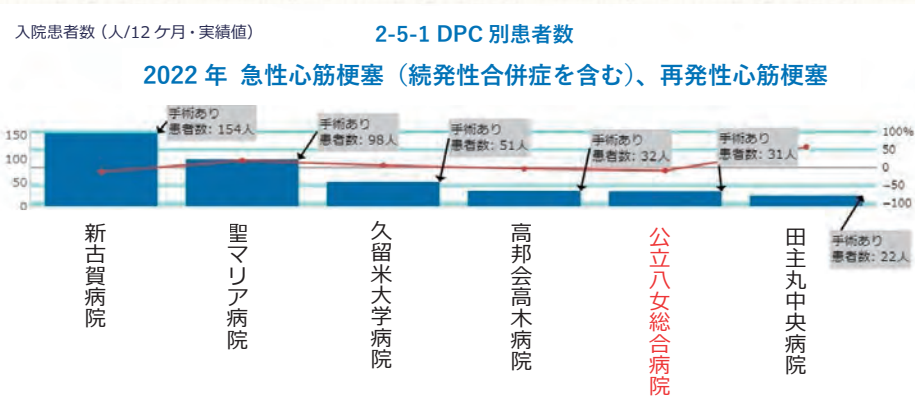
「脳卒中が起こったときの超急性期治療として、血栓が詰まった血管にカテーテルで血栓を絡め取る『血管内治療』なども進歩してきました。

しかし、実施率においては未だに地域によってばらつきがあり、その恩恵を受けられる人が限られているのが現状です。」

※心筋梗塞になった時、八女筑後医療圏でカテーテル治療ができるのは当院だけです※

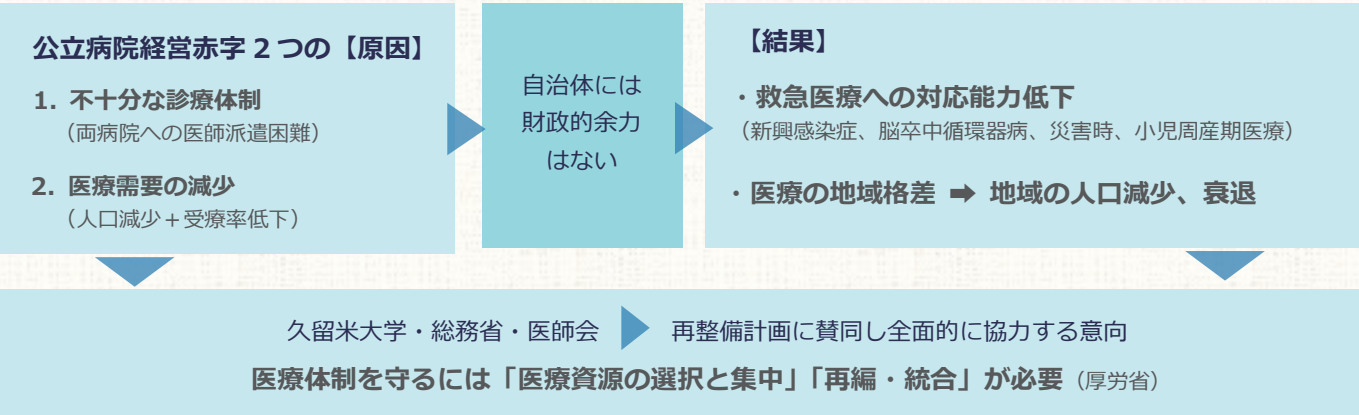
～心筋梗塞に対するカテーテル治療が可能になりました～

当院では筑後地区でも有数（筑後地区では5番目）の心筋梗塞のカテーテル治療が行われています。
住み慣れた地域で安心して生活するため、また格差のない医療を提供するため、今年6月に世界最新鋭の血管撮影装置を導入し、当院でも高度な心筋梗塞のカテーテル治療を受ける事ができるようになりました。
（詳細は6ページにて紹介していますので是非ご一読ください。）



8. 病院再整備を行わない場合、八女筑後医療圏はどうなるか

八女筑後医療圏にある二つの公立病院は、共に赤字が続いています。今後、医療需要は減少することが予測され、自治体には赤字を負担する財政力は限られており、このままでは救急医療を中心とした医療提供体制の大きな危機を迎えます。当院の再整備計画は、いまの医療提供体制を守り、更に地域の医療格差をなくすための計画です。久留米大学、医師会、総務省もこの計画に賛同し、全面的に協力することを表明しています。この再整備計画を核にして、地域医療の再編と統合を推進することは、厚生労働省も強く推奨しています。



9. 新病院再整備計画の課題：「赤字経営の公立病院の再整備」

	再整備なし	再整備あり
財政、経営	・公立2病院の累積赤字の増加 ・経営悪化から閉院への可能性	・病院建設債務（企業債）の増加 ・自治体財政への負担増の可能性
圏内での医療提供体制	・公的医療の維持は困難 ・久留米へ医療依存は早晚困難に	・公的医療の維持 ・医療圏内の医療資源の効率化・統合へ ・医療圏内で完結する医療の前進
職員確保 大学からの医師派遣 生産年齢人口の減少	・医師、職員が「働きたくない病院」に ・大学、職員から「選ばれない病院」に	・医師、職員が「働きたい病院」に ・大学、職員から「選ばれる病院」に
医療格差	・他地域との医療格差を受容する ・医療体制の低下が地域の衰退に	・地域格差のない医療の提供 ・将来世代と地域のための医療提供体制

※医療と地域は一体※

医療体制の低下は地域の衰退に直結し
地域の衰退は医療に影響を及ぼす

「脳神経外科」を紹介いたします

～診療科紹介～



前列左から 脳神経外科：宮原部長 藤森医長 星野医員 と病棟スタッフ



診療科とスタッフ
の紹介はこちらの
QRコードより
ご覧いただけます。



皆さんこんにちは。脳神経外科部長の宮原と申します。今回は私たち「脳神経外科」の紹介をさせていただきます。

主な疾患について

- ・脳血管障害（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、未破裂脳動脈瘤、頸動脈狭窄症など）
- ・頭部外傷、急性・慢性硬膜下血腫、脳挫傷、外傷性くも膜下出血
- ・脳腫瘍（髄膜腫など）
- ・脊椎・脊髄疾患（脊髄損傷、頸椎症性脊髄症、腰部脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニア、腰椎椎体圧迫骨折、骨粗鬆症など）
- ・慢性頭痛
- ・水頭症
- ・変性疾患
- ・症候性てんかん
- ・顔面けいれん、三叉神経痛

科の特徴について

○ 脳血管障害、脊髄疾患、頭頸部外傷を中心とした外来、入院診療を行っています。

○ 多職種で毎週定期的に入院患者さんのカンファレンスを行っています。

○ 当科は【日本脳卒中学会認定 研修施設・一次脳卒中センター】
【日本脊髄外科学会認定 研修施設(B)】として、脳卒中・脊髄脊椎を中心に地域の
開業医の先生方やリハビリ病院の先生方と連携を密にとり、急性期、回復期、
慢性期治療を円滑に行っています。

○ 当院は久留米大学関連病院であり、当院で対応が難しい症例につきましては久留米大学教授に相談を行うなど、迅速かつ
緊密に連絡を取りながらご紹介させて頂くこともございます。

○ 神経内科疾患に関しましては、久留米大学脳神経内科の先生にご紹介させて頂き、
協力して治療にあたっています。

○ 休日や夜間での受診や救急搬送された脳卒中症例は、迅速に脳神経外科に
連絡が入るようになっており、血栓溶解療法や緊急手術など常時対応しています。

○ 脳・脊髄の手術では、九州初導入であったロボティクス機構を持つ最新の高性能
顕微鏡を見ながら神経電気生理モニタリングを併用して行っています。

○ 脊髄手術においては、久留米大学脊髄グループと定期的にカンファレンスを行い、
顕微鏡・チューブ型開創器・内視鏡を症例に応じて使い分けながら手術を行っています。

○ 新たに導入された「最新鋭のバイブレーション血管撮影装置」「脳ドック」については、次ページにて紹介します。



カンファレンスの様子



顕微鏡手術風景

お気軽にお問合せ・ご相談ください

「農心」系外科としての気持ちも持ちながら、地域の皆様が再び
畑や仕事に出来る限り戻って頂けるように、「Think globally,
Act locally」で各人が研鑽修練を怠ることなく、これからも八
女・筑後地区の皆様の脳・神経系の突然の一大事にお役に立てる
よう、皆様が病気になる前に予防出来るように誠心誠意、謙虚な
気持ちで努めて参りたいと思います。

そして八女・筑後地区で皆様が毎日安心して過ごせる一助にな
りたいといつも考えて備えています。

これからも当院脳神経外科を何卒宜しくお願い申し上げます。

脳神経外科部長

宮原 孝寛

医学博士

日本脳神経外科学会専門医

日本脳卒中学会専門医、指導医

日本脳卒中の外科学会技術認定医

日本脊髄外科学会認定医、指導医

日本脳神経外科学会同時通訳団員

日本脊髄脊髄病学会脊髄モニタリング認定医

脊椎脊髄外科専門医

KYPHON® Balloon Kyphoplasty Primary
Physician Training 修了



□最新鋭の「バイブレーション血管撮影装置」について

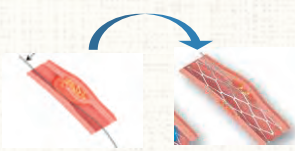
当院に新たに導入された最新鋭のバイブレーション血管撮影装置を使用して、頸動脈ステントや緊急脳血栓除去術、脳動脈コイル閉塞術などの血管内治療を行えるようになり、脳卒中治療の選択肢が飛躍的に増えました。



血管内治療風景

～ステント留置～

カテーテルを用いて狭くなった血管内に金属製の網目状の筒（ステント）を挿入し、血管を内側から広げ、血流を改善する治療



世界最新鋭の血管撮影装置（Philips 社製）



- | | | |
|-------|---|---------|
| 頸動脈狭窄 | ▶ | ステント留置術 |
| 脳梗塞 | ▶ | 血栓回収術 |
| 脳動脈瘤 | ▶ | コイル塞栓術 |
| 子宮筋腫 | ▶ | 動脈塞栓術 |
| 産科出血 | ▶ | 動脈塞栓術 |

高度なカテーテル治療が可能に

脳卒中（脳梗塞、くも膜下出血など）や、その他の命に関わる出血を止めるカテーテル治療ができる装置です。住み慣れた地域で安心して生活するため、格差のない医療を提供するために導入しました。

脳 ドック のごあんない

脳ドックとは、脳卒中などの脳疾患のリスクを早期発見するために行う健康診断です。

当院の企業長で放射線科専門医である田中法瑞医師が検査当日に診療・説明を行い、綿密な検査のもと脳疾患の異常を事前に発見します。

実施日時： 毎週火曜日 13:00～17:00（休祝日を除く）

予約方法： 完全予約制（お電話もしくは総合受付にて「脳ドック希望」とお伝えください。）

0943-23-4131（予約受付対応時間：平日 13:00～16:00）

A コース

頭部 MRI 検査+頭頸部 MRA 検査+頸動脈超音波検査
身体計測+血圧測定+血液検査+心電図検査

43,000 円（税込）

B コース

頭部 MRI 検査+頭頸部 MRA 検査+頸動脈超音波検査
身体計測+血圧測定

35,000 円（税込）

脳ドックの
ながれ



注意：手術等で体内に金属類や機器類が埋め込まれている方は検査ができない可能性があります。ご不明な場合は前もって手術を行った医療機関にご確認下さい。

選定療養費のお知らせ

当院では、国の推進する「医療機関の機能分担」に基づき、他の医療機関からの紹介状をお持ちになられず来院された患者さんについては、診療費とは別に選定療養費として以下の通りご負担いただくこととなっております。但し、緊急や救急など、その他やむを得ない場合の受診や特定の公費医療の方を除きます。

初診の場合	・他医療機関からの紹介状がない初診の場合 ・院内で受診中以外の診療科をご自身の選択により受診された場合など ○ 医科：7,700 円（税込） ○ 歯科：5,500 円（税込）
-------	--

再診の場合	・他医療機関へご紹介させていただいた後、紹介状をお持ちにならずに、ご自身の選択により当院を再度受診された場合 ・ご自身の都合により受診された場合など ○ 医科：3,300 円（税込） ○ 歯科：2,090 円（税込）
-------	---

※時間外の受診も（平日 17:00～翌朝 8:30／土日祝日／年末年始）選定療養費が必要になる場合があります。
詳しくは受付窓口にお問い合わせください。（お問合せ：診療支援課）

※選定療養費とは※ 国が病院と診療所の機能の分担を推進するために定めた制度で、200 床以上の地域医療支援病院等を受診される際、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない方を対象に、医療費の他に自費にて一定額以上を徴収することが義務付けられています。ご理解とご協力をお願い致します。

「がんサロン八女」のご案内



「がんサロン八女」は当院が企画・運営する、がん患者さんやそのご家族が集まり交流や情報交換をする場です。

- ・対話を通じ不安や悩み、孤独感を緩和する場所
- ・患者さんやご家族同士が交流を図る場所
- ・がんに関する情報の交換、共有ができる場所

「らいおんの家」でほっとできる時間を一緒に過ごしませんか？

お気軽にご参加ください

移転しました 新開催場所	らいおんの家 ※蒲原日吉神社隣 八女市蒲原 1397-2
開催日／時間	毎月 第 2 土曜日
時 間	10:00～11:00
対 象	がん患者とそのご家族
参 加 費	無 料
予 約	不 要 (開催時間に直接お越しください)

「当院を受診したことがない」「かかりつけではない」という方もがん患者さんとそのご家族ならどなたでも参加いただくことができます。

がんサロン八女：蒲原日吉神社隣

参加無料
駐車場あり



お問い合わせ：がん相談支援センター
(平日 9:00～16:00)

外来診療
受付時間

初 診 8:30～11:00
再 診 8:00～11:00



外来診療表
の確認は
こちらから

TEL:0943-23-4131

FAX:0943-22-3185 医療連携室:0943-22-6929